

成熟期になっても直立したままの穂がありませんか!?



その被害は、**イネカメムシ**が原因かも

\*イネカメムシ被害による不稔穂の発生ほ場

イネカメムシの加害により  
不稔による減収や斑点米の発生などの被害があります



卵塊とふ化幼虫



2 齡幼虫



老齡幼虫



成虫  
(体長約13mm)

イネカメムシによる被害



●出穂期に ➡ **不稔穂が発生**  
加害



●穂揃期以 ➡ **斑点米が発生**  
降に加害  
※本虫の加害による斑点  
は玄米基部～中程にか  
けて発生することが多い

**出穂前後の防除を行いましょう!**

岡山県植物防疫協会

## イネカメムシの生態と発生時期

- ・ 雑草などで越冬した成虫が7月頃に水田に移動し、稲の葉に1列または2列に十数個ずつ並べて産卵します。
- ・ 年1回の発生で、9～10月頃に越冬地に移動します。
- ・ 品種に関わらず、稲が出穂してくると**籾基部を吸汁加害**します。  
**出穂期に加害されると不稔穂の発生、穂揃期以降に加害されると斑点米被害の原因**になると考えられます。



染色した吸汁痕の断面図（口針鞘）

イネカメムシによる籾基部の吸汁痕（○の部分）

## イネカメムシの防除対策

- ・ 不稔被害を防ぐためには、出穂直後の吸汁を抑えることが重要です。  
**出穂前後に2回、『カメムシ類』に登録のある薬剤を散布しましょう。**

移植期

出穂期

穂揃期

収穫期

イネカメムシによる  
不稔穂発生防除時期

イネカメムシを含む斑点米カメムシ類による  
斑点米被害防除時期

- ・ 発生が多い水田では**追加防除**を行いましょう。

## 防除における注意事項

- ・ 本種はこれまで県中部の中山間地で被害が多く確認されています。  
**発生が認められる地域では、特に出穂期の基幹防除を徹底**しましょう。
- ・ **周年より出穂が早いまたは遅い品種では被害が多くなる**可能性があるため、特に発生に注意しましょう。
- ・ 農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項などを確認し、収穫前日数や使用回数を遵守しましょう。